

## はじめに

千葉市環境保健研究所は開所して20年目を迎えました。この間、全国の地方衛生環境研究所をはじめ多くの関係者の皆様にご指導、ご鞭撻を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。

市民の皆様が快適な環境のもとで健康な生活を営まれるよう、関係行政部局や保健所等と緊密な連携を図りながら、保健衛生並びに環境保全に係る行政施策の推進に寄与して参りました。

お陰さまで、地域における科学的かつ技術的中核機関として地方衛生環境研究所の使命を果たすことができました。

振り返りますと、平成20年の中国産冷凍餃子事件、平成21年の新型インフルエンザの流行、平成22年のA型肝炎ウイルスによる食中毒、平成23年には東日本大震災と原子力発電所からの放射能漏出事故など、重大な健康危機管理事案を経験しました。このような渦中であって、平成22年には国内で初めてのタイプの麻しんウイルス株を検出するといったトピックもありました。

当所では、食品の安全に代表される生活衛生、感染症、環境保全と幅広い分野での試験検査と調査研究等の事業を通じて、地域保健対策と公衆衛生の向上増進を図るよう職員が一丸となって日々努力しております。

しかしながら、精度管理の維持、技術職員の後継者育成、検査機器の老朽化、財政の逼迫等々、多くの課題を抱えており、創意工夫で乗り切るには余りにも厳しい現実に向き合っています。

そこで、開所20年の節目を契機に今年度、中堅職員を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、10年、20年後の研究所の進むべき方向性をしっかりと見据えた「研究所のあるべき姿」の検討を進めて参ります（24年度は基本設計）。

皆様方にはご理解、ご支援をいただきますとともに、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

このたび、事業概要及び調査研究を取りまとめた平成23年度年報の発行の運びとなりました。ご高覧頂き、ご意見、ご批判などお聞かせいただければ幸いです。

平成24年12月

千葉市環境保健研究所  
所長 三井 良雄